様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：３４３０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ０１７９６

研究課題名（和文）アメリカ人事管理生成史の実証的研究

研究課題名（英文）The Personnel Management Movement in the United States: A Historical Study

研究代表者
上野　継義（Ueno, Tsuguyoshi）

京都産業大学・経営学部・教授

研究者番号：００１８３７４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、人事管理者として立とうとした人びとの自己形成の努力を再現するかたちで、アメリカ人事管理の生成史を描くことである。この運動の中心にいたのは、大規模産業企業や中堅企業で雇用された労働分野の専門的中間管理者たちである。彼らは自前の労働問題解決策を雇主に売り込むことによって「人事管理者」という新しい専門職の地位を獲得しようとする野心的な人たちであった。このような立身出世運動が人事管理運動だったのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は歴史の見方に反省を迫るものである。従来の研究は、本研究でとり上げた産業看護婦、インダストリアル・エンジニア、公衆衛生運動の指導者たちの働きを人事管理の「起源」や「源流」として位置づけてきた。しかしながら、この人たちは誰ひとりとして、人事管理運動にかかわることを予想して職業選択をしたわけではなかった。ある日突然、人事管理と出会うのであり、その結果として、否応もなくこの管理運動に合流していくこととなる。この人たちの主観的な思いに即して歴史を再構成するならば、人事管理生成史というのは、予期せぬ邂逅の物語にほかならなかった。

研究成果の概要（英文）：This study aims to extend our understanding of the history of personnel management in the United States, focusing on the thoughts and behaviors of the leaders of this management movement. The leading players among the leaders were professional middle managers in the labor field employed by large-scale industrial concerns and progressive employer-owned medium-sized companies. They were ambitious people trying to gain a new professional position as “personnel managers” by selling their solutions to labor problems to their employers. Such a rising career movement was the personnel management movement.

研究分野：アメリカ経営史、アメリカ労働史、国際比較経営史

キーワード：人事管理　安全運動　公衆衛生運動　人間工学　専門職業主義　産業看護　安全第一　セイフティ・マン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

19 世紀末葉から 20 世紀初頭のアメリカは、企業の労務改革に向けた努力が相ついで現れた時期であり、これらが合わさって第一次世界大戦期の人事管理運動に結びつく。この運動の主たる担い手は誰なのか、この問いに真摯に答えたいと思う。

これまでの研究はいずれも雇主や経営者を主語にして物語を描いてきた。ニュー・レフト史家やコーポレイト・リベラリズム論はもとより、内部労働市場論も、個別企業の実証研究も、認識枠組みや立場の違いを問わず、大企業経営者が一群の専門管理者の手を借りて、新しい人事管理技術を採りいれて労務政策を見直したと述べている。現象的にはまさにそのように見えるが、現実の製造業大手の雇主たちは、新しい労働者観と能率観を自発的に身につけ、みずからの采配で進歩的な労務政策を打ち出すほど、ものわかりがよかったわけではない。

人事管理運動の担い手は、このような経営者を説得する方向で自己の問題解決策を売り込んだ数多の専門的中間管理者たちであった。彼らは「セールスマンシップの才能」を駆使して、自前の処方箋を売り込み、人事管理者の地位を得ようと目論む野心的な人びとであった。

２．研究の目的

本研究の目的は、人事管理者として立とうとした人びとの自己形成の努力を再現するかたちで、アメリカ人事管理の生成史を描くことである。この人たちはしばしば「人間技師(human engineer)」と呼ばれ、また自称したが、それはなぜか。この問いに答えるかたちで歴史を再構成する点に本研究の大きな特徴がある。

ヒューマン・エンジニアなる言葉が生まれた背後には、次のような社会思潮の影響があった。大量生産の母国アメリカでは、機械生産こそが富を際限なく創り出し、人びとの暮らしを豊かにする原動力だと信じられていた。かくしてモノを扱う術(機械工学)はいちじるしく発達したが、それに比べてヒトを扱う術（人間工学）は無きに等しい。この落差を埋めるためには後者を機械工学に匹敵する新しい科学として確立しなければならない。このような思想の興隆を契機にして、背景を異にするさまざまな人たちがわれこそは人間工学の担い手であると声を挙げ、雇主に対して労働問題の新しい解決策を提案するようになる。これが人事管理運動である。本研究はこの人たちの主体的な努力をすくいあげるかたちで人事管理運動の全体像を把握しようとする試みである。

ヒューマン・エンジニアと呼ばれた人たちは、具体的に、どのような出自を有していたのか。人事管理運動は、複数の管理運動の集合体だったのであり、首尾一貫した思想を有する統一的な運動ではなかった。個々の管理運動の担い手はさまざまだが、大きく二つに分けることができる。ひとつは、20 世紀最初の 20 年間に大企業や進歩的な経営者の率いる中堅企業に新たに雇用された労働分野の専門的中間管理者たちである。具体的には、災害防止活動に精力を傾けたセイフティ・マン、産業衛生の担い手である産業医や産業看護婦、社立学校運動を立ち上げた教育訓練管理者、インダストリアル・エンジニアリング（IE）の世界に開眼しつつあった技術者の卵たちである。いまひとつは、企業の外から産業コミュニティに働きかけた社会改良家である。

この人たちはいずれも、それぞれ専門とする仕事領域において一個の専門家として自己形成しようとしていたが、1916 年以降、人事管理という新しい包括的な専門職思想と出会うことで、自己の職業の将来について態度決定を迫られることになる。人事管理との出会いは、これら専門家たらんとしていた人たちにとって、新しい自分の可能性との出会いでもあった。人事管理生成史は予期せぬ出会いと偶然の驚きに満ちた物語なのである。

３．研究の方法

これまで、人事管理運動を構成する一つひとつの管理運動の流れに即して論文をまとめてきた。とくに 1920 年代の大企業労務政策（ウェルフェア・キャピタリズム）の方向を規定することになった労使関係管理運動の担い手であるセイフティ・マンの働きを重点的に考察してきた。近年は、IE 運動の流れ、産業看護婦の働きに視野を広げている。また、この度の研究期間に公衆衛生運動の重要性に気づいた。

次の二つの方向で研究をすすめた。

(1) 人事管理運動を構成する個々の管理運動のありようを詳らかにする。具体的には、産業看護運動、公衆衛生運動、IE 運動の流れを個別に検討した。これらの運動の担い手たちは、それぞれ固有の問題関心をもって人事管理運動に合流してきた。自前の問題解決策を売り込む方法や専門職化の戦略には類似性があったが、人事管理者として立とうとの意欲の程度はまちまちであった。このような共通性と差異を明らかにする方向で分析を進める。

(2) 人事管理生成史の全体像を提示する。この運動の全体的な方向に決定的な影響を及ぼした雇用管理運動と安全運動を重点的に考察する。分析に際しては、グローバルな視点を加味して、従来の研究を相対化する必要がある。人事管理生成史というと一国内の歴史のように見えるが、現実には国際的な影響関係が深く陰を落としていた。隣国イギリスの労働政策は、アメリカ政府の戦時労働政策はもとより、社会改良家たちの労務改革構想におおきな影響を及ぼしていた。こ

のような国際的なモメントを組み入れて、人事管理生成史を再構成する必要がある。

４．研究成果

上記「研究の方法」に示した個々の作業課題に即して、このたびの研究成果を見ていくことにしよう。

（1）産業看護婦たちが人事管理運動とどのようにかかわったのかを明らかにした。第一に、彼女たちは人事管理者という地位に野心をもっていなかった。看護の仕事に誇りと深い思い入れがあり、英国の先達フローレンス・ナイチンゲールの予言、すなわち、病気の看護者(sick nurses)ではなく、健康の守護者(health nurses)になるとの理想に固く誓いを立てていたからである。

第二に、人事管理運動の中でしばしば語られた改革テーマのひとつに慈恵的な福利活動の見直しがあるが、1910 年代に提示された新しい産業看護婦像はそれを体現していた。労働者災害補償法ならびに労災保険法が制定される中、訪問看護リーダーたちは「労使間の通訳者」という新しい産業看護婦像を提示していくことになる。もとより、看護婦たちがこの理想通りに行動できたわけではなく、総じて雇主寄りの視点を有していたと考えられる。

第三に、産業企業の福利活動にたずさわるようになった訪問看護婦協会は、1910 年代に、慈善に距離をとりビジネスライクな視点を身につけるようになった。福利活動の性格については研究史がある。ジャコービィ『雇用官僚制』は、特別協議委員会(SCC)に加盟する優良企業によって主導された長期勤続者優遇型の金銭的福利が温情主義的な性格を薄める方向に機能したと述べている。この見解は金銭的福利の慈恵性を批判してきた労働史研究への反論の意味合いがあった。だが真に問うべきは労働者の心のありかと福利活動の担い手の意識のありようである。まず前者についていえば、金銭的福利にも温情的要素はつきまとっていたが、リザベス・コーエンが考証しているとおり、1920 年代の時代環境の中で労働者は大企業の私的福祉を受けいれるようになった。本研究がとりあげたのは後者である。1910 年代に進展した労働者災害補償法と労災保険法への対応から、産業看護婦の役割認識に変化（マトロンから労使間の通訳者へ）が起きた。また、訪問看護婦協会は、保険会社との共同事業を通じて、長年慣れ親しんできた慈善に距離をとるようになり、看護サーヴィスにマネジメントとコスト計算の視点を採り入れる必要性を自覚することになる。

（2）公衆衛生運動の指導者 C.-E.A.ウィンズロー(Charles-Edward Amory Winslow, 1877-1957)が､産業衛生への取り組みを通じて人事管理運動に否応もなくかかわっていく姿を描いた。分析に際しては、彼が 1920 年に公表した公衆衛生の定義に着目する。そこには過去の反省と将来の目標が書き込まれているゆえ、定義の成立事情を丹念に復元するならば、ウィンズローが時代の問題にどのように取り組んだのかを浮き彫りにすることができる。

ウィンズローは、定義の執筆にとりかかった 1919 年頃、人事管理運動のブレーンの役割を果たしていたが、それは否応もなくそのような立ち位置におかれてしまったという性格が強い。もとよりその伏線がなかったわけではない。若い頃から産業衛生の問題に強い関心を抱き、全国市民連盟(National Civic Federation)福利部のガートルード・ビークスの論説にヒントを得て、労働環境の改善に向けて実地調査をおこなった。労働者の活力と職場環境（空調）とのかかわりについて論文を発表し、その視点から科学的管理の修正を要求するようになる。ウィンスロップ・タルボットの創始した人間工学運動に接近したのもそうした問題関心のゆえである。あとから振り返ってみれば、人事管理運動にかかわる準備が前々からなされていたかのように見えるが、なにごとも結果から見れば必然のなりゆきに映る。ここでは視点を変えて、生成の相でものごとを観察し、人生における出会いの驚きと偶然性を掘り起こした。

本研究の研究史的な位置について述べる。ウィンズローの公衆衛生の定義の背後に人間工学思想のあることは知られていない。その理由は、1930 年代から 50 年代にかけて“human engineering”の元の意味が失われ、まったく異なる意味で使われるようになったために、公衆衛生運動との結びつきを辿るための通路が見失われてしまったからである。

ウィンズローの論文“Fresh Air as a Speed Boss”は、このたびの調査で新たに発見したものであり、これによってウィンズローと「科学的管理の父」フレデリック・ウィンズロー・テイラーとの関係が明らかになった。この論文は、発表当時大きな注目をあつめ、ジェネラル・エレクトリック社のような大手企業もこの論文に反応して管理専門誌に広告を載せたが、その後忘れられてしまった。イェール大学の紀要に網羅的なウィンズロー文献目録があるが、そこから漏れている作品について「目録：補遺」をまとめた。

（3）IE 運動については、ヒューゴ・ディーマーの著作目録（第四篇）をまとめるかたちで、技術者と人事管理運動とのかかわりについて考察した。新しい専門職である人事管理に野心をいだいた「IE の伝道者」と呼ぶべき人たちは、若い技術者たちにこの新領域で活躍してほしいと願っていた。しかし、実際に人事管理者として企業に重要された人は限られていた。

（4）人事管理運動の全体像については､『社会経済史学事典』の人事管理関連項目に執筆に加わることで素描することができた。人事管理運動の全体的な方向に決定的な影響を及ぼしたのは、雇用管理運動と安全運動であり、第一次世界大戦の休戦を境に、主導権が前者から後者へと移行する｡セイフティ･マンは雇用管理運動の処方箋をそっくり模倣して人事管理者を目ざした。激烈な労働移動は産業安全を脅かす大問題であり、その解決には安全部を「労使関係部」という名の人事部へと昇格させて、企業内の人間関係活動のすべてをそこに集め、この部門を統括する

有能な労使関係管理者を雇用せよと訴えた。1913 年に創設された全国安全協議会はアメリカ最大の人事管理推進機関へと成長していくことになった。

（5）グローバルな影響関係については、産業疲労の問題について検証した。1916 年に英国議会に提出された英国軍需省の報告書がその翌年いくつかのルートでアメリカに伝えられ、産業疲労の問題がアメリカで注目される契機となったが、米国での紹介方法に特徴があった。管理専門誌『ファクトリー』に掲載された論文では、人間機械のメタファーが用いられ、科学的管理批判の文脈で紹介されたのである。

（6）今後の課題としては、管理の制度化プロセスについて、国際比較の視点から検討する必要がある。企業を運営していくための方法が、勘や経験や「天与の才」といったものに依拠するのではなく、「管理の科学」と呼ぶべき一群の知識に体系化され定式化され、種々の諸制度（専門雑誌や業界誌、専門家協会、大学の専門課程、標準的テキストなど）に支えられて移転可能な状態になることを管理の制度化と言うが、このプロセスは国によって大きな違いがある。おおまかに次のように言ってよいだろう。アメリカでは、企業に雇用された専門的中間管理者による管理の専門職化への取り組みを通じて管理の制度化が進んだ。戦前のわが国でも新興の中間管理者たちが欧米への留学や視察を通じて先進的な労務管理手法の輸入に貢献したが、管理技術を普及するための組織づくりの面では、安全第一協会、産業福利協会、協調会に見るように、官僚や財界のイニシアティヴがおおきな役割を果たした。このような管理の制度化プロセスの特徴は、わが国の管理者に専門家意識が希薄であることと密接なかかわりがあるであろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計15件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　12件）

１．著者名 上野継義	４．巻 37
２．論文標題 アメリカ鉱山業における『安全第一の父』たち――顕彰の定型句と記憶のかたち――	５．発行年 2020年
３．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	６．最初と最後の頁 99-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 上野継義	４．巻 38
２．論文標題 ゲーリー判事の人道主義物語――安全運動創成神話の成立・伝播・再生――	５．発行年 2021年
３．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	６．最初と最後の頁 49-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 上野継義	４．巻 1008
２．論文標題 2020年度歴史学研究会大会報告批判（近代史部会）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史学研究	６．最初と最後の頁 39-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 上野継義	４．巻 35
２．論文標題 ヒューゴ・ディーマー著作目録・第四篇――人事管理運動とのかかわり――	５．発行年 2019年
３．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	６．最初と最後の頁 105-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 18
2．論文標題 19世紀末アメリカにおける産業看護の起源――創成神話の成立とその歴史的背景――	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アメリカ経済史研究	6．最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 -
2．論文標題 人事労務管理	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会経済史学事典	6．最初と最後の頁 244-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 -
2．論文標題 ウェルフェア・キャピタリズム（福祉資本主義）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会経済史学事典	6．最初と最後の頁 292-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 40
2．論文標題 人間機械の“efficiency”について――1910年代アメリカの企業広告と科学的管理運動――	5．発行年 2021年
3．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	6．最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 20
2．論文標題 安全第一運動の模範工場、その神話と現実――ゲーリー製鉄所物語の成立――	5．発行年 2021年
3．雑誌名 アメリカ経済史研究	6．最初と最後の頁 21-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野 継義	4．巻 56
2．論文標題 人間機械論と公衆衛生の定義――革新主義期アメリカにおけるC.-E. A. ウィンズローと人間工学運動――	5．発行年 2022年
3．雑誌名 アメリカ研究	6．最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11380/americanreview.56.0_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 40
2．論文標題 チャールズ・ウィンズローの公衆衛生の定義について――説明抜きの加筆・修正・削除に関する文献調査: 1　英語文献（米英と国際組織を中心に）――	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	6．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 40
2．論文標題 『道徳経済一元論』の変容――新しい読者層の成立――	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	6．最初と最後の頁 205-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 40
2．論文標題 Bibliography of Charles-Edward A. Winslow: An Addendum, 1909-1924	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都マネジメント・レビュー	6．最初と最後の頁 217-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 上野継義	4．巻 19
2．論文標題 安全第一の起源――セイフティ・マンの働きを軸に、1905-1910年――	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アメリカ経済史研究	6．最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 上野継義
2．発表標題 安全運動の模範工場ゲーリー製鉄所――神話と現実――
3．学会等名 アメリカ経済史学会第63回全国大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 上野継義
2．発表標題 アメリカ産業看護の創成物語――神話の成立とその意味――
3．学会等名 社会政策学会東海部会
4．発表年 2019年

１．発表者名 上野継義
２．発表標題 19世紀末アメリカにおける産業看護の起源――創成神話の成立とその歴史的背景――
３．学会等名 アメリカ経済史学会12月例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 上野継義
２．発表標題 アメリカ人事管理の生成とは何か？――人間技師の戦いを軸に生成史を描く――
３．学会等名 社会政策学会東海部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 上野継義
２．発表標題 人間機械論と公衆衛生の定義――革新主義期アメリカにおけるC.-E. A. ウィンズローと人間工学運動――
３．学会等名 社会政策学会労働史部会
４．発表年 2021年

１．発表者名 上野継義
２．発表標題 労働者の健康はどのように議論されていたのか――革新主義期アメリカにおける人間工学運動と人間機械論の系譜――
３．学会等名 経営史学会第57回全国大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

京都産業大学経営学部「上野継義」ホームページ
http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~ueno/index-j.html
「私の研究」のページ
http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~ueno/research/index-j.html
アメリカ人事管理の生成とは何か？
http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~ueno/research/sp2020.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関